

平成 28 (2016) 年度 研究報告書
南部地域の活性化に向けた調査研究 I

比嘉康則 研究員

要旨

豊中市の南部地域は現在、市内でも顕著な人口減少と少子高齢化が進行している。そのような地域の活性化を図るためには、どのような取り組みが求められるのか。本研究では2年間を通じて、南部地域の活性化に向けた取り組みについて、大阪音楽大学との連携を見据え、ソフト面からのアプローチに重点を置き、主に量的データを分析することにより、南部地域の活性化に向けた大まかな方向性を示した。

地域活性化に関する先行議論を整理すると、多くの議論は「人口」「産業・経済」「コミュニティ」のうち複数の側面に注目しながら地域活性化を捉えていると言える。そして、各側面のネガティブな状況(停滞局面)からポジティブな状況(活性局面)へと移行することを、地域活性化として捉えることができる。

2年研究の1年目である本報告では、活性化の方向性を検討するにあたって、「人口」「産業・経済」「コミュニティ」といった側面に関して、南部地域でどのような停滞局面がみられるのかについて、現状分析を行った。

既存の統計資料の分析のほか、大阪音楽大学の学生や若い世代を対象とした質問紙調査を実施した。その結果として以下の6点がみられた。

- 1) 地域に関する意識について。南部地域の若い世代における地域環境の評価の低さ。
- 2) 生活満足度について。南部地域では他地域に比べて総合的な満足度が低い傾向にある。
- 3) 消費に関する意識や行動について。庄内駅周辺の店舗の利用機会は、若い世代の間では35~39歳、社会経済制約が大きい人で多くなっている。
- 4) 子育て・教育に関する意識や行動について。南部地域は他の2地域に比べ、子育てに関して不安に思っている項目が多く、子育て不安が強い可能性がある。
- 5) 社会的つながりについて。南部地域の若い世代は社会的つながりが弱い傾向にあった。
- 6) 居住意向について。南部地域は他地域に比べて定住志向が弱く、移動志向が強い。

以上の結果をもとに、南部地域の活性化に向けた案として3つの方向性を示した。

- A) 学生をターゲットとした庄内駅周辺の雰囲気を活かした店舗・まちなみの展開
- B) 単身者をターゲットとした「居場所」でのゆるやかなつながりの醸成
- C) 子育て世代をターゲットとした「音楽」を媒介したつながりの形成

目次

- 第1章 はじめに
- 第2章 豊中市の生活の質について
- 第3章 豊中市民の生活の質に関するアンケート
- 第4章 アンケート調査の定量的分析
- 第5章 おわりに